

た高齢者が家事活動やゆっくり散歩、ストレッチのような低強度の生活活動や運動を含む、座ったり横になったりしていること以外の身体活動を実施する際の強度は概ね1.5～3メッツ程度、平均すると2.2メッツ程度と思われるため、1日約40分の身体活動の実施と同等と考えられる。このことから65歳以上の高齢者を対象とした基準については「横になったままや座ったままにならなければどんな動きでもよいので、身体活動を毎日40分行う」と表現した。

現状に付加する身体活動量の基準として3メッツ以上の中強度の身体活動を現状よりも少しでも増やすことを提案した。この目標については「現在の身体活動量を少しでも増やす。今より毎日10分ずつ長く歩くようにする。」と表現した。

- ・歩行又はそれと同等以上の強度の身体活動を毎日約60分以上行う。
- ・歩数で1日当たり約8,000～10,000歩
- ・息が弾み汗をかく程度の運動を毎週60分行う。
- ・65歳以上の高齢者は横になったままや座ったままにならなければどんな動きでも良いので、身体活動を毎日40分行う。
- ・現在の身体活動量を少しでも増やす。今より毎日10分ずつ長く歩くようにする。

4. 他国等の身体活動ガイドラインとの比較

世界保健機関(WHO)は、高血圧(13%)、喫煙(9%)、高血糖(6%)に次いで、身体不活動(6%)を全世界の死亡に対する危険因子の第4位と認識し、その対策として「健康のための身体活動に関する国際勧告」を平成22年に発表した(1)。欧米諸国でも、「アメリカ人のための身体活動ガイドライン2008」に代表されるガイドラインがすでに策定されている。WHOや米国では、未成年、成人、高齢者の3つの年代別に基準値を示している。年代により身体活動の状況や目標が異なることから年代別に基準値を示すという考え方は適切なアプローチであると考えられる。

我が国の健康づくりのための運動基準2006では、生活習慣病予防を重視していたため、18歳から69歳までの主に成人を対

象とした基準値を定めていた。しかし、急速な高齢化の進行と、健康日本21(第2次)において生活習慣病予防だけでなく社会生活機能の維持を目標としたことにより、今回の運動基準の改定作業において、新たに65歳以上の基準値を提案した。しかし、18歳未満の未成年の基準の策定は見送った。その最大の理由は、未成年の参加者を対象に生活習慣病の発症等をアウトカムとした大規模コホート研究の数が限られていたためである。今後、我が国でも未成年者を長期に追跡する研究を実施し、研究成果を蓄積する必要がある。

我が国では、文部科学省や日本体育協会などが、健康づくりの観点だけではないものの、子どもや未成年を対象とした身体活動・運動のガイドラインや指針を策定している。例えば、未就学児を対象とした「幼児期運動指針」(21)、児童・生徒を対象とした「アクティブ・チャイルド60min.」(22)などが、健康づくりだけでなく体力向上や発育・発達の促進・運動技能の獲得などを目指して、1日あたり60分の活発な遊びやスポーツを推奨している。今後の基準の改定においては、これらの指針との整合性を取りながら、今後蓄積されるエビデンスをレビューして、18歳未満の未成年の基準を策定していく必要があると考えられる。

WHO、米国とも成人が取り組むべき身体活動の基準値は中強度身体活動を週150分、1日あたり30分としている。WHO、米国、我が国とも基準値策定の根拠となるエビデンスやレビューの手法には違いがないにも関わらず、我が国の身体活動量の基準値は欧米の約2倍の1日60分とした。理由は、我が国の平均的身体活動量がすでにWHOや米国の基準値である1日30分を上回っており、基準値策定の原則「⑤基準値は我が国の現状を下回らない」に基づき、国民全体の身体活動量を増加させる方向に導くために、23メッツ・時/週=1日60分を身体活動量の基準値とした。他国の基準値は10分以上継続した身体活動や運動の時間を積算しているが、我が国は10分以上の活動や運動に限定していないこと、余暇や移動だけでなく就労や家事などの生活活動などのすべての身体活動を含んでいることなどの理由を挙げることができる。

我が国は、身体活動量や運動量の基準値だけでなく、他国のガイドラインでは類を見ない体力（全身持久力）の基準値を示している。表 4・6 と表 10・11 とを比較すると、身体活動量や運動量の基準値の達成者と最も身体活動量・運動量が少ない者との間での RR の減少は 10～20%程度であるが、全身持久力の基準値達成者と最も体力の低い者との間での RR の減少は約 40%と、体力を高めることや維持することの健康利益は大きいことがわかる。したがって、単に身体活動量や運動量の基準を達成するだけでなく、積極的に体力の維持・向上に努めることを推奨するために、体力の基準値を定めている。

E. 結論

平成 18 年に作成された「健康づくりのための運動基準 2006」の改定を目的として、8 名の専門家で構成される研究班で検討を重ねた。改定にあたり、①基準値の変更が必要か検討する、②生活習慣病予防だけでなく、がん予防・社会生活機能の低下予防の観点も重視する、③新しく 65 歳以上の高齢者のための基準を示す、④簡易な表現でも基準値を示す、⑤全身持久力以外の体力の基準値策定の可能性を探る、⑥量反応関係に基づいた現状に加える身体活動量の基準策定の可能性を探る、を目的とした。これらの観点に基づき、システムティックレビューとメタ解析を用いて検討した結果、以下の 5 つの基準値あるいは基準を提案する。

- ① 強度が 3 メッツ以上の身体活動を 23 メッツ・時／週行う。（歩行又はそれと同等以上の強度の身体活動を毎日 60 分以上行う、歩数で 1 日当たり約 8,000～10,000 歩）
- ② 強度が 3 メッツ以上の運動を 4 メッツ・時／週行う。（息が弾み汗をかく程度の運動を毎週 60 分行う）
- ③ 65 歳以上の高齢者に対しては、強度を問わず、身体活動を 10 メッツ・時／週行う。（横になったままや座ったままにならなければどんな動きでもよいので、身体活動を毎日 40 分行う）
- ④ 現在の身体活動量を、少しでも増やす。

（今より毎日 10 分ずつ長く歩くようにする）

- ⑤ 性・年代別の全身持久力（最大酸素摂取量）の基準値として、男性 40 歳未満：11.0 メッツ、40～59 歳：10.0 メッツ、60 歳以上：9.0 メッツ、女性 40 歳未満：9.5 メッツ、40～59 歳：8.5 メッツ、60 歳以上：7.5 メッツ
- ⑥ 65 歳以上の高齢者の握力の参照値として、男性 38kg 重、女性 23kg 重、また、歩行速度（参照値）：74m／分

F. 引用文献

1. WHO. Global Recommendations on Physical Activity for Health. 2010 http://whqlibdoc.who.int/publications/2010/9789241599979_eng.pdf.
2. Ikeda, N., M. Inoue, H. Iso, S. Ikeda, T. Satoh, M. Noda, T. Mizoue, H. Imano, E. Saito, K. Katanoda, T. Sobue, S. Tsugane, M. Naghavi, M. Ezzati & K. Shibuya. 2012. Adult mortality attributable to preventable risk factors for non-communicable diseases and injuries in Japan: a comparative risk assessment. *PLoS Med* 9: e1001160.
3. Sofi, F., D. Valecchi, D. Bacci, R. Abbate, G. F. Gensini, A. Casini & C. Macchi. 2011. Physical activity and risk of cognitive decline: a meta-analysis of prospective studies. *J Intern Med* 269: 107-117.
4. 厚生労働省、健康日本 21 評価作業チーム。「健康日本 21」最終評価。2011 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001r5gc-att/2r9852000001r5np.pdf>.
5. 厚生労働省. 2000. 21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）の推進について.
6. 厚生労働省. 2006. 健康づくりのための運動基準 2006.
7. 厚生労働省、運動指針小委員会. 健康づくりのための運動指針 2006 -エクササイズガイド 2006-. 2006 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/undou01/pdf/data.pdf>.

8. 厚生労働省次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会. 次期国民健康づくり運動プラン報告書. 2012 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000028709-att/2r985200000287dp.pdf>.
9. Greenland, S. & M. P. Longnecker. 1992. Methods for trend estimation from summarized dose-response data, with applications to meta-analysis. *Am J Epidemiol* 135: 1301-1309.
10. Hamling, J., P. Lee, R. Weitkunat & M. Ambuhl. 2008. Facilitating meta-analyses by deriving relative effect and precision estimates for alternative comparisons from a set of estimates presented by exposure level or disease category. *Stat Med* 27: 954-970.
11. 田中茂穂. 2006. 生活習慣病予防のための身体活動・運動量 (特集 新しい健康づくりのための運動基準・指針). *体育の科学* 56: 601-607.
12. 大島秀武, 引原有輝, 大河原一憲, 高田和子, 三宅理江子, 海老根直行, 田畑泉 & 田中茂穂. 2012. 加速度計で求めた「健康づくりのための運動基準 2006」における身体活動の目標値 (23 メッツ・時/週) に相当する歩数. *体力科学* 61: 193-199.
13. 村上晴香, 川上諒子, 大森由美, 宮武伸行, 森田明美 & 宮地元彦. 2012. 健康づくりのための運動基準 2006 における身体活動量の基準値週 23 メッツ時と 1 日あたりの歩数との関連. *体力科学* 61: 183-191.
14. 熊原秀晃, Y. Schutz, 吉岡まゆみ, 吉武裕, 進藤宗洋 & 田中宏暁. 2010. 健康づくりのための運動基準に則した日常生活活動量評価における歩数の妥当性. *福岡大学スポーツ科学研究* 39: 101-111.
15. 宮地元彦. 2006. 生活習慣病予防のための体力 (特集 新しい健康づくりのための運動基準・指針). *体育の科学* 56: 608-614.
16. Ohta, T., J. Zhang, K. Ishikawa, I. Tabata, Y. Yoshitake & M. Miyashita. 1999. [Peak oxygen uptake, ventilatory threshold and leg extension power in apparently healthy Japanese]. *Nihon Koshu Eisei Zasshi* 46: 289-297.
17. 磯川正教, 今中國泰, 大槻文夫, 北一郎, 桜井智野風, 山崎秀夫 & 琉子友男. 2007. 77 対体重最大酸素摂取量. In *新・日本人の体力標準値 II*, ed. 首都大学東京体力標準値研究会, 328-330. 東京: 不昧堂.
18. 鈴木政登. 2009. 日本人の健康関連体力指標最大酸素摂取量基準域および望ましいレベル. *体力科学* 58: 5-6.
19. Samitz, G., M. Egger & M. Zwahlen. 2011. Domains of physical activity and all-cause mortality: systematic review and dose-response meta-analysis of cohort studies. *Int J Epidemiol* 40: 1382-1400.
20. Zheng, H., N. Orsini, J. Amin, A. Wolk, V. T. Nguyen & F. Ehrlich. 2009. Quantifying the dose-response of walking in reducing coronary heart disease risk: meta-analysis. *Eur J Epidemiol* 24: 181-192.
21. 文部科学省幼児期運動指針策定委員会. 2012. 幼児期運動指針.
22. 竹中晃二. 2010. アクティブ・チャイルド 60 min.: サンライフ企画.

【参考資料】

- 18 歳以上における身体活動量の基準値策定に用いた文献
1. Ball K, Burton NW, Brown WJ. A prospective study of overweight, physical activity, and depressive symptoms in young women. (2009) *Obesity* (Silver Spring). 17. 66-71.
2. Bertone ER, Willett WC, Rosner BA, Hunter DJ, Fuchs GS, Speizer FE, Colditz GA, Hankinson SE. Prospective study of recreational physical activity and ovarian cancer. (2001) *J Natl Cancer Inst.* 93. 942-8.
3. Brown WJ, Ford JH, Burton NW, Marshall AL, Dobson AJ. Prospective study of physical activity and depressive symptoms in middle-aged women. (2005) *Am J Prev Med.* 29. 265-272.
4. Ching PL, Willett WC, Rimm EB, Colditz GA, Gortmaker SL, Stampfer MJ. Activity level and risk of overweight in male health professionals. (1996) *Am J Public Health.* 86. 25-30.
5. Colbert LH, Lacey JV, Jr., Schairer C, Albert P, Schatzkin A, Albanes D. Physical activity and risk of endometrial cancer in a prospective cohort study (United States). (2003) *Cancer Causes Control.* 14. 559-67.
6. E. ThorpeDonna L.; KnutsenSynnove F.; BeesonW. Lawrence; FraserGary. The effect of vigorous physical activity and risk of wrist fracture over 25 years in a low-risk survivor cohort. (2006) *J Bone Miner Metab.* 24. 476-483.
7. Eliassen AH, Hankinson SE, Rosner B, Holmes MD, Willett WC. Physical activity and risk of breast cancer among postmenopausal women. (2010) *Arch Intern Med.* 170. 1758-1764.
8. Feskanich D, Willett W, Colditz G. Walking and leisure-time activity and risk of hip fracture in postmenopausal women. (2002) *JAMA.* 288. 2300-6.
9. Fretts AM, Howard BV, Kriska AM, Smith NL, Lumley T, Lee ET, Russell M, Siscovick D. Physical activity and incident diabetes in American Indians: the Strong Heart Study. (2009) *Am J Epidemiol.* 170. 632-639.
10. Garcia-Aymerich J, Lange P, Serra I, Schnohr P, Anto JM. Time-dependent confounding in the study of the effects of regular physical activity in chronic obstructive pulmonary disease: an application of the marginal structural model. (2008) *Ann Epidemiol.* 18. 775-783.
11. Gierach GL, Chang SC, Brinton LA, Lacey JV, Jr., Hollenbeck AR, Schatzkin A, Leitzmann MF. Physical activity, sedentary behavior, and endometrial cancer risk in the NIH-AARP Diet and Health Study. (2009) *Int J Cancer.* 124. 2139-2147.
12. Hamer M, Stamatakis E. Physical activity and risk of cardiovascular disease events: inflammatory and metabolic mechanisms. (2009) *Med Sci Sports Exerc.* 41. 1206-1211.
13. Heesch KC, Miller YD, Brown WJ. Relationship between physical activity and stiff or painful joints in mid-aged women and older women: a 3-year prospective study. (2007) *Arthritis Res Ther.* 9. R34.
14. Howard RA, Leitzmann MF, Linet MS, Freedman DM. Physical activity and breast cancer risk among pre- and postmenopausal women in the U.S. Radiologic Technologists cohort. (2009) *Cancer Causes Control.* 20. 323-333.
15. Hu FB, Sigal RJ, Rich-Edwards JW, Colditz GA, Solomon CG, Willett WC, Speizer FE, Manson JE. Walking compared with vigorous physical activity and risk of type 2 diabetes in women: a prospective study. (1999) *JAMA.* 282. 1433-9.
16. Khan MM, Mori M, Sakauchi F, Matsuo K, Ozasa K, Tamakoshi A. Risk factors for multiple myeloma: evidence from the Japan Collaborative Cohort (JACC) study. (2006) *Asian Pac J Cancer Prev.* 7. 575-581.
17. Larsson SC, Rutegard J, Bergkvist L, Wolk A. Physical activity, obesity, and risk of colon and rectal cancer in a cohort of Swedish men. (2006) *Eur J Cancer.* 42. 2590-2597.
18. Lee IM, Hsieh CC, Paffenbarger RS Jr. Exercise intensity and longevity in men. The Harvard Alumni Health Study. (1995) *JAMA.* 273. 1179-84.
19. Leitzmann MF, Park Y, Blair A, Ballard-Barbash R, Mouw T, Hollenbeck AR, Schatzkin A. Physical activity recommendations and decreased risk of mortality. (2007) *Arch Intern Med.* 167. 2453-2460.
20. Manson JE, Greenland P, LaCroix AZ, Stefanick ML, Mouton CP, Oberman A, Perri MG, Sheps DS, Pettinger MB, Siscovick DS. Walking compared with vigorous exercise for the prevention of cardiovascular events in women. (2002) *N Engl J Med.* 347. 716-25.
21. Martinez ME, Giovannucci E, Spiegelman D, Hunter DJ, Willett WC, Colditz GA. Leisure-time physical activity, body size, and colon cancer in women. Nurses' Health Study Research Group. (1997) *J Natl Cancer Inst.* 89. 948-55.
22. Maruti SS, Willett WC, Feskanich D, Rosner B, Colditz GA. A prospective study of age-specific physical activity and premenopausal breast cancer. (2008) *J Natl Cancer Inst.* 100. 728-737.
23. Michaud DS, Giovannucci E, Willett WC, Colditz GA, Stampfer MJ, Fuchs GS. Physical activity, obesity, height, and the risk of pancreatic cancer. (2001) *JAMA.* 286. 921-9.
24. Orsini N, Bellocco R, Bottai M, Pagano M, Andersson SO, Johansson JE, Giovannucci E, Wolk A. A prospective study of lifetime physical activity and prostate cancer incidence and mortality. (2009) *Br J Cancer.* 101. 1932-1938.
25. Patel AV, Bernstein L, Deka A, Feigelson HS, Campbell PT, Gapstur SM, Colditz GA, Thun MJ. Leisure time spent sitting in relation to total mortality in a prospective cohort of US adults. (2010) *Am J Epidemiol.* 172. 419-429.
26. Petersen L, Schnohr P, Sorensen TI. Longitudinal study of the long-term relation between physical activity and obesity in adults. (2004) *Int J Obes Relat Metab Disord.* 28. 105-12.
27. Robbins J, Aragaki AK, Kooperberg C, Watts N, Wactawski-Wende J, Jackson RD, LeBoff MS, Lewis CE, Chen Z, Stefanick ML, Cauley J. Factors associated with 5-year risk of hip fracture in postmenopausal

- women. (2007) *JAMA*. 298. 2389-2398.
28. Rosenberg L, Boggs D, Wise LA, Palmer JR, Roltsch MH, Makambi KH, Adams-Campbell LL. A follow-up study of physical activity and incidence of colorectal polyps in African-American women. (2006) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 15. 1438-1442.
 29. Sprague BL, Trentham-Dietz A, Klein BE, Klein R, Cruickshanks KJ, Lee KE, Hampton JM. Physical activity, white blood cell count, and lung cancer risk in a prospective cohort study. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 17. 2714-2722.
 30. Strom M, Mortensen EL, Halldorson TI, Osterdal ML, Olsen SF. Leisure-time physical activity in pregnancy and risk of postpartum depression: a prospective study in a large national birth cohort. (2009) *J Clin Psychiatry*. 70. 1707-1714.
 31. Suzuki S, Kojima M, Tokudome S, Mori M, Sakauchi F, Fujino Y, Wakai K, Lin Y, Kikuchi S, Tamakoshi K, Yatsuya H, Tamakoshi A. Effect of physical activity on breast cancer risk: findings of the Japan collaborative cohort study. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 17. 3396-3401.
 32. Takahashi H, Kuriyama S, Tsubono Y, Nakaya N, Fujita K, Nishino Y, Shibuya D, Tsuji I. Time spent walking and risk of colorectal cancer in Japan: the Miyagi Cohort study. (2007) *Eur J Cancer Prev*. 16. 403-408.
 33. Wannamethee G, Shaper AG. Physical activity and stroke in British middle aged men. (1992) *BMJ*. 304. 597-601.
2. 18歳以上における身体活動量の基準値策定に用いた文献
1. Backmand H, Kaprio J, Kujala U, Sarna S. Influence of physical activity on depression and anxiety of former elite athletes. (2003) *Int J Sports Med*. 24. 609-19.
 2. Bak H, Petersen L, Sorensen TI. Physical activity in relation to development and maintenance of obesity in men with and without juvenile onset obesity. (2004) *Int J Obes Relat Metab Disord*. 28. 99-104.
 3. Besson H, Ekelund U, Brage S, Luben R, Bingham S, Khaw KT, Wareham NJ. Relationship between subdomains of total physical activity and mortality. (2008) *Med Sci Sports Exerc*. 40. 1909-1915.
 4. Chao A, Connell CJ, Jacobs EJ, McCullough ML, Patel AV, Calle EE, Cokkinides VE, Thun MJ. Amount, type, and timing of recreational physical activity in relation to colon and rectal cancer in older adults: the Cancer Prevention Study II Nutrition Cohort. (2004) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 13. 2187-95.
 5. Dallal CM, Sullivan-Halley J, Ross RK, Wang Y, Deapen D, Horn-Ross PL, Reynolds P, Stram DO, Clarke CA, Anton-Culver H, Ziogas A, Peel D, West DW, Wright W, Bernstein L. Long-term recreational physical activity and risk of invasive and in situ breast cancer: the California teachers study. (2007) *Arch Intern Med*. 167. 408-415.
 6. Friedenreich C, Norat T, Steindorf K, Boutron-Ruault MC, Pischon T, Mazuir M, Clavel-Chapelon F, Linseisen J, Boeing H, Bergman M, Johnsen NF, Tjonneland A, Overvad K, Mendez M, Quiros JR, Martinez C, Dorronsoro M, Navarro C, Gurrea AB, Bingham S, Khaw KT. Physical activity and risk of colon and rectal cancers: the European prospective investigation into cancer and nutrition. (2006) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 15. 2398-2407.
 7. Giovannucci EL, Liu Y, Leitzmann MF, Stampfer MJ, Willett WC. A prospective study of physical activity and incident and fatal prostate cancer. (2005) *Arch Intern Med*. 165. 1005-1010.
 8. Hayashi T, Tsumura K, Suematsu C, Okada K, Fujii S, Endo G. Walking to work and the risk for hypertension in men: the Osaka Health Survey. (1999) *Ann Intern Med*. 131. 21-6.
 9. Koebernick C, Michaud D, Moore SC, Park Y, Hollenbeck A, Ballard-Barbash R, Schatzkin A, Leitzmann MF. Body mass index, physical activity, and bladder cancer in a large prospective study. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 17. 1214-1221.
 10. Krishnan S, Rosenberg L, Palmer JR. Physical activity and television watching in relation to risk of type 2 diabetes: the Black Women's Health Study. (2009) *Am J Epidemiol*. 169. 428-434.
 11. Kujala UM, Kaprio J, Sarna S, Koskenvuo M. Relationship of leisure-time physical activity and mortality: the Finnish twin cohort. (1998) *JAMA*. 279. 440-4.
 12. Kushi LH, Fee RM, Folsom AR, Mink PJ, Anderson KE, Sellers TA. Physical activity and mortality in postmenopausal women. (1997) *JAMA*. 277. 1287-92.
 13. Lee IM, Hsieh CC, Paffenbarger RS Jr. Exercise intensity and longevity in men. The Harvard Alumni Health Study. (1995) *JAMA*. 273. 1179-84.
 14. Leitzmann MF, Koebernick C, Abnet CC, Freedman ND, Park Y, Hollenbeck A, Ballard-Barbash R, Schatzkin A. Prospective study of physical activity and lung cancer by histologic type in current, former, and never smokers. (2009) *Am J Epidemiol*. 169. 542-553.
 15. Leitzmann MF, Koebernick C, Freedman ND, Park Y, Ballard-Barbash R, Hollenbeck AR, Schatzkin A, Abnet CC. Physical activity and head and neck cancer risk. (2008) *Cancer Causes Control*. 19. 1391-1399.
 16. Leitzmann MF, Park Y, Blair A, Ballard-Barbash R, Mouw T, Hollenbeck AR, Schatzkin A. Physical activity recommendations and decreased risk of mortality. (2007) *Arch Intern Med*. 167. 2453-2460.
 17. Littman AJ, Kristal AR, White E. Recreational physical activity and prostate cancer risk (United States). (2006) *Cancer Causes Control*. 17. 831-841.
 18. Manson JE, Nathan DM, Krolewski AS, Stampfer MJ, Willett WC, Hennekens CH. A prospective study of exercise and incidence of diabetes among US male physicians. (1992) *JAMA*. 268. 63-7.
 19. Manson JE, Rimm EB, Stampfer MJ, Colditz GA, Willett WC, Krolewski AS, Rosner B, Hennekens CH, Speizer FE. Physical activity and incidence of non-insulin-dependent diabetes mellitus in women. (1991) *Lancet*. 338. 774-8.

20. Moore SC, Chow WH, Schatzkin A, Adams KF, Park Y, Ballard-Barbash R, Hollenbeck A, Leitzmann MF. Physical activity during adulthood and adolescence in relation to renal cell cancer. (2008) *Am J Epidemiol.* 168. 149-157.
21. Moore SC, Peters TM, Ahn J, Park Y, Schatzkin A, Albanes D, Ballard-Barbash R, Hollenbeck A, Leitzmann MF. Physical activity in relation to total, advanced, and fatal prostate cancer. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 17. 2458-2466.
22. Nechuta SJ, Shu XO, Li HL, Yang G, Xiang YB, Cai H, Chow WH, Ji B, Zhang X, Wen W, Gao YT, Zheng W. Combined impact of lifestyle-related factors on total and cause-specific mortality among Chinese women: prospective cohort study. (2010) *PLoS Med.*
23. Nilsen TI, Romundstad PR, Vatten LJ. Recreational physical activity and risk of prostate cancer: A prospective population-based study in Norway (the HUNT study). (2006) *Int J Cancer.* 119. 2943-2947.
24. Oliveria SA, Kohl HW, 3rd, Trichopoulos D, Blair SN. The association between cardiorespiratory fitness and prostate cancer. (1996) *Med Sci Sports Exerc.* 28. 97-104.
25. Patel AV, Calle EE, Bernstein L, Wu AH, Thun MJ. Recreational physical activity and risk of postmenopausal breast cancer in a large cohort of US women. (2003) *Cancer Causes Control.* 14. 519-29.
26. Patel AV, Feigelson HS, Talbot JT, McCullough ML, Rodriguez C, Patel RC, Thun MJ, Calle EE. The role of body weight in the relationship between physical activity and endometrial cancer: results from a large cohort of US women. (2008) *Int J Cancer.* 123. 1877-1882.
27. Patel AV, Rodriguez C, Bernstein L, Chao A, Thun MJ, Calle EE. Obesity, recreational physical activity, and risk of pancreatic cancer in a large U.S. Cohort. (2005) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 14. 459-66.
28. Patel AV, Rodriguez C, Jacobs EJ, Solomon L, Thun MJ, Calle EE. Recreational physical activity and risk of prostate cancer in a large cohort of U.S. men. (2005) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 14. 275-9.
29. Peters TM, Schatzkin A, Gierach GL, Moore SC, Lacey JV, Jr., Wareham NJ, Ekelund U, Hollenbeck AR, Leitzmann MF. Physical activity and postmenopausal breast cancer risk in the NIH-AARP diet and health study. (2009) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 18. 289-296.
30. Rana JS, Li TY, Manson JE, Hu FB. Adiposity compared with physical inactivity and risk of type 2 diabetes in women. (2007) *Diabetes Care.* 30. 53-58.
31. Sprague BL, Trentham-Dietz A, Klein BE, Klein R, Cruickshanks KJ, Lee KE, Hampton JM. Physical activity, white blood cell count, and lung cancer risk in a prospective cohort study. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 17. 2714-2722.
32. Suzuki S, Kojima M, Tokudome S, Mori M, Sakauchi F, Fujino Y, Wakai K, Lin Y, Kikuchi S, Tamakoshi K, Yatsuya H, Tamakoshi A. Effect of physical activity on breast cancer risk: findings of the Japan collaborative cohort study. (2008) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 17. 3396-3401.
33. van Gool CH, Kempen GI, Bosma H, van Boxtel MP, Jolles J, van Eijk JT. Associations between lifestyle and depressed mood: longitudinal results from the Maastricht Aging Study. (2007) *Am J Public Health.* 97. 887-894.
34. Wiles NJ, Haase AM, Gallacher J, Lawlor DA, Lewis G. Physical activity and common mental disorder: results from the Caerphilly study. (2007) *Am J Epidemiol.* 165. 946-954.
35. Wise LA, Adams-Campbell LL, Palmer JR, Rosenberg L. Leisure time physical activity in relation to depressive symptoms in the Black Women's Health Study. (2006) *Ann Behav Med.* 32. 68-76.
- 3. 65 歳以上における身体活動量の基準値策定に用いた文献**
1. Gregg EW, Cauley JA, Seeley DG, Ensrud KE, Bauer DC. Physical activity and osteoporotic fracture risk in older women. Study of Osteoporotic Fractures Research Group. (1998) *Ann Intern Med.* 129. 81-8.
2. Heesch KC, Miller YD, Brown WJ. Relationship between physical activity and stiff or painful joints in mid-aged women and older women: a 3-year prospective study. (2007) *Arthritis Res Ther.* 9. R34.
3. Ravaglia G, Forti P, Lucicesare A, Pisacane N, Rietti E, Bianchin M, Dalmonete E. Physical activity and dementia risk in the elderly: findings from a prospective Italian study. (2008) *Neurology.* 70. 1786-1794.
4. Smith TL, Masaki KH, Fong K, Abbott RD, Ross GW, Petrovitch H, Blanchette PL, White LR. Effect of walking distance on 8-year incident depressive symptoms in elderly men with and without chronic disease: the Honolulu-Asia Aging Study. (2010) *J Am Geriatr Soc.* 58. 1447-1452.
- 4. 最大酸素摂取量の基準値策定に用いた文献**
1. Blair SN, Goodyear NN, Gibbons LW, Cooper KH. Physical fitness and incidence of hypertension in healthy normotensive men and women. (1984) *JAMA.* 252. 487-90.
2. Chase NL, Sui X, Lee DC, Blair SN. The association of cardiorespiratory fitness and physical activity with incidence of hypertension in men. (2009) *Am J Hypertens.* 22. 417-424.
3. Ekelund LG, Haskell WL, Johnson JL, Whaley FS, Criqui MH, Sheps DS. Physical fitness as a predictor of cardiovascular mortality in asymptomatic North American men. The Lipid Research Clinics Mortality Follow-up Study. (1988) *N Engl J Med.* 319. 1379-84.
4. Evenson KR, Stevens J, Cai J, Thomas R, Thomas O. The effect of cardiorespiratory fitness and obesity on cancer mortality in women and men. (2003) *Med Sci Sports Exerc.* 35. 270-7.
5. Farrell SW, Braun L, Barlow CE, Cheng YJ, Blair SN. The relation of body mass index, cardiorespiratory fitness, and all-cause mortality in women. (2002) *Obes Res.* 10. 417-23.
6. Farrell SW, Cortese GM, LaMonte MJ, Blair SN.

- Cardiorespiratory fitness, different measures of adiposity, and cancer mortality in men. (2007) *Obesity* (Silver Spring). 15. 3140-3149.
7. Farrell SW, Fitzgerald SJ, McAuley PA, Barlow GE. Cardiorespiratory fitness, adiposity, and all-cause mortality in women. (2010) *Med Sci Sports Exerc.* 42. 2006-2012.
 8. Gulati M, Pandey DK, Arnsdorf MF, Lauderdale DS, Thisted RA, Wicklund RH. Exercise capacity and the risk of death in women: the St James Women Take Heart Project. (2003) *Circulation.* 108. 1554-9.
 9. Holtermann A, Mortensen OS, Burr H, Sogaard K, Gyntelberg F, Suadicani P. Physical demands at work, physical fitness, and 30-year ischaemic heart disease and all-cause mortality in the Copenhagen Male Study. (2010) *Scand J Work Environ Health.* 36. 357-365.
 10. Hooker SP, Sui X, Colabianchi N, Vena J, Laditka J, LaMonte MJ, Blair SN. Cardiorespiratory fitness as a predictor of fatal and nonfatal stroke in asymptomatic women and men. (2008) *Stroke. a journal of cerebral circulation;* 39. 2950-2957.
 11. Kampert JB, Blair SN, Barlow GE, Kohl HW 3rd. Physical activity, physical fitness, and all-cause and cancer mortality: a prospective study of men and women. (1996) *Ann Epidemiol.* 6. 452-7.
 12. Karpanalo M, Lakka TA, Manninen P, Kauhanen J, Rauramaa R, Salonen JT. Cardiorespiratory fitness and risk of disability pension: a prospective population based study in Finnish men. (2003) *Occup Environ Med.* 60. 765-9.
 13. Katzmarzyk PT, Church TS, Blair SN. Cardiorespiratory fitness attenuates the effects of the metabolic syndrome on all-cause and cardiovascular disease mortality in men. (2004) *Arch Intern Med.* 164. 1092-7.
 14. Kohl HW, Gordon NF, Villegas JA, Blair SN. Cardiorespiratory fitness, glycemic status, and mortality risk in men. (1992) *Diabetes Care.* 15. 184-92.
 15. Kokkinos P, Dumas M, Myers J, Faselis C, Manolis A, Pittaras A, Kokkinos JP, Papademetriou V, Singh S, Fletcher RD. A graded association of exercise capacity and all-cause mortality in males with high-normal blood pressure. (2009) *Blood Pressure.* 18. 261-267.
 16. Kokkinos P, Myers J, Faselis C, Panagiotakos DB, Dumas M, Pittaras A, Manolis A, Kokkinos JP, Karasik P, Greenberg M, Papademetriou V, Fletcher R. Exercise capacity and mortality in older men: a 20-year follow-up study. (2010) *Circulation.* 122. 790-797.
 17. Kurl S, Laukkanen JA, Rauramaa R, Lakka TA, Sivenius J, Salonen JT. Cardiorespiratory fitness and the risk for stroke in men. (2003) *Arch Intern Med.* 163. 1682-8.
 18. LaMonte MJ, Barlow GE, Jurca R, Kampert JB, Church TS, Blair SN. Cardiorespiratory fitness is inversely associated with the incidence of metabolic syndrome: a prospective study of men and women. (2005) *Circulation.* 112. 505-512.
 19. Laukkanen JA, Lakka TA, Rauramaa R, Kuhanen R, Venalainen JM, Salonen R, Salonen JT. Cardiovascular fitness as a predictor of mortality in men. (2001) *Arch Intern Med.* 161. 825-31.
 20. Laukkanen JA, Pukkala E, Rauramaa R, Makikallio TH, Toriola AT, Kurl S. Cardiorespiratory fitness, lifestyle factors and cancer risk and mortality in Finnish men. (2010) *Eur J Cancer.* 46. 355-363.
 21. Lee CD, Blair SN. Cardiorespiratory fitness and smoking-related and total cancer mortality in men. (2002) *Med Sci Sports Exerc.* 34. 735-9.
 22. Lee CD, Blair SN, Jackson AS. Cardiorespiratory fitness, body composition, and all-cause and cardiovascular disease mortality in men. (1999) *Am J Clin Nutr.* 69. 373-80.
 23. Lee CD, Jackson AS, Blair SN. US weight guidelines: is it also important to consider cardiorespiratory fitness? (1998) *Int J Obes Relat Metab Disord.* 22. S2-7.
 24. Lyerly GW, Sui X, Lavie CJ, Church TS, Hand GA, Blair SN. The association between cardiorespiratory fitness and risk of all-cause mortality among women with impaired fasting glucose or undiagnosed diabetes mellitus. (2009) *Mayo Clin Proc.* 84. 780-786.
 25. McAuley P, Pittsley J, Myers J, Abella J, Froelicher VF. Fitness and fatness as mortality predictors in healthy older men: the veterans exercise testing study. (2009) *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 64. 695-699.
 26. McAuley PA, Kokkinos PF, Oliveira RB, Emerson BT, Myers JN. Obesity paradox and cardiorespiratory fitness in 12,417 male veterans aged 40 to 70 years. (2010) *Mayo Clin Proc.* 85. 115-121.
 27. Mora S, Redberg RF, Cui Y, Whiteman MK, Flaws JA, Sharrett AR, Blumenthal RS. Ability of exercise testing to predict cardiovascular and all-cause death in asymptomatic women: a 20-year follow-up of the lipid research clinics prevalence study. (2003) *JAMA.* 290. 1600-7.
 28. Myers J, Prakash M, Froelicher V, Do D, Partington S, Atwood JE. Exercise capacity and mortality among men referred for exercise testing. (2002) *N Engl J Med.* 346. 793-801.
 29. Oliveria SA, Kohl HW, 3rd, Trichopoulos D, Blair SN. The association between cardiorespiratory fitness and prostate cancer. (1996) *Med Sci Sports Exerc.* 28. 97-104.
 30. Park MS, Chung SY, Chang Y, Kim K. Physical activity and physical fitness as predictors of all-cause mortality in Korean men. (2009) *J Korean Med Sci.* 24. 13-19.
 31. Peel JB, Sui X, Adams SA, Hebert JR, Hardin JW, Blair SN. A prospective study of cardiorespiratory fitness and breast cancer mortality. (2009) *Med Sci Sports Exerc.* 41. 742-748.
 32. Peel JB, Sui X, Matthews GE, Adams SA, Hebert JR, Hardin JW, Church TS, Blair SN. Cardiorespiratory fitness and digestive cancer mortality: findings from the aerobics center longitudinal study. (2009) *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 18. 1111-1117.
 33. Sandvik L, Erikssen J, Thaulow E, Erikssen G, Mundal R, Rodahl K. Physical fitness as a predictor of mortality among healthy, middle-aged Norwegian

- men. (1993) *N Engl J Med*. 328. 533-7.
34. Sawada S, Tanaka H, Funakoshi M, Shindo M, Kono S, Ishiko T. Five year prospective study on blood pressure and maximal oxygen uptake. (1993) *Clin Exp Pharmacol Physiol*. 20. 483-7.
 35. Sawada SS, Lee IM, Muto T, Matuszaki K, Blair SN. Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes. (2003) *Diabetes Care*. 26. 2918-22.
 36. Sawada SS, Lee IM, Naito H, Noguchi J, Tsukamoto K, Muto T, Higaki Y, Tanaka H, Blair SN. Long-term trends in cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes. (2010) *Diabetes Care*. 33. 1353-1357.
 37. Sawada SS, Muto T, Tanaka H, Lee IM, Paffenbarger RS, Jr., Shindo M, Blair SN. Cardiorespiratory fitness and cancer mortality in Japanese men: a prospective study. (2003) *Med Sci Sports Exerc*. 35. 1546-50.
 38. Sieverdes JC, Sui X, Lee DC, Church TS, McClain A, Hand GA, Blair SN. Physical activity, cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes in a prospective study of men. (2010) *Br J Sports Med*. 44. 238-244.
 39. Stevens J, Evenson KR, Thomas O, Cai J, Thomas R. Associations of fitness and fatness with mortality in Russian and American men in the lipids research clinics study. (2004) *Int J Obes Relat Metab Disord*. 28. 1463-70.
 40. Sui X, Laditka JN, Church TS, Hardin JW, Chase N, Davis K, Blair SN. Prospective study of cardiorespiratory fitness and depressive symptoms in women and men. (2009) *J Psychiatr Res*. 43. 546-552.
 41. Sui X, LaMonte MJ, Blair SN. Cardiorespiratory fitness as a predictor of nonfatal cardiovascular events in asymptomatic women and men. (2007) *Am J Epidemiol*. 165. 1413-1423.
 42. Sui X, LaMonte MJ, Laditka JN, Hardin JW, Chase N, Hooker SP, Blair SN. Cardiorespiratory fitness and adiposity as mortality predictors in older adults. (2007) *JAMA*. 298. 2507-2516.
 43. Sui X, Lee DC, Matthews CE, Adams SA, Hebert JR, Church TS, Lee CD, Blair SN. Influence of cardiorespiratory fitness on lung cancer mortality. (2010) *Med Sci Sports Exerc*. 42. 872-878.
 44. Wei M, Gibbons LW, Mitchell TL, Kampert JB, Lee CD, Blair SN. The association between cardiorespiratory fitness and impaired fasting glucose and type 2 diabetes mellitus in men. (1999) *Ann Intern Med*. 130. 89-96.
 45. 澤田享、武藤孝司. 日本人男性における有酸素能力と生命予後に関する縦断的研究. (1999) *日本公衆衛生学雑誌*. 46. 113-121.
5. 座位時間およびテレビ鑑賞時間の参照値算出に用いた文献
1. Dunstan DW, Barr EL, Healy GN, Salmon J, Shaw JE, Balkau B, Magliano DJ, Cameron AJ, Zimmet PZ, Owen N. Television viewing time and mortality: the Australian Diabetes, Obesity and Lifestyle Study (AusDiab). (2010) *Circulation*. 121. 384-391.
 2. George SM, Irwin ML, Matthews CE, Mayne ST, Gail MH, Moore SC, Albanes D, Ballard-Barbash R, Hollenbeck AR, Schatzkin A, Leitzmann MF. Beyond recreational physical activity: examining occupational and household activity, transportation activity, and sedentary behavior in relation to postmenopausal breast cancer risk. (2010) *Am J Public Health*. 100. 2288-2295.
 3. Gierach GL, Chang SC, Brinton LA, Lacey JV, Jr., Hollenbeck AR, Schatzkin A, Leitzmann MF. Physical activity, sedentary behavior, and endometrial cancer risk in the NIH-AARP Diet and Health Study. (2009) *Int J Cancer*. 124. 2139-2147.
 4. Howard RA, Freedman DM, Park Y, Hollenbeck A, Schatzkin A, Leitzmann MF. Physical activity, sedentary behavior, and the risk of colon and rectal cancer in the NIH-AARP Diet and Health Study. (2008) *Cancer Causes Control*. 19. 939-953.
 5. Inoue M, Yamamoto S, Kurahashi N, Iwasaki M, Sasazuki S, Tsugane S. Daily total physical activity level and total cancer risk in men and women: results from a large-scale population-based cohort study in Japan. (2008) *Am J Epidemiol*. 168. 391-403.
 6. Katzmarzyk PT, Church TS, Craig CL, Bouchard C. Sitting time and mortality from all causes, cardiovascular disease, and cancer. (2009) *Med Sci Sports Exerc*. 41. 998-1005.
 7. Krishnan S, Rosenberg L, Palmer JR. Physical activity and television watching in relation to risk of type 2 diabetes: the Black Women's Health Study. (2009) *Am J Epidemiol*. 169. 428-434.
 8. Patel AV, Bernstein L, Deka A, Feigelson HS, Campbell PT, Gapstur SM, Colditz GA, Thun MJ. Leisure time spent sitting in relation to total mortality in a prospective cohort of US adults. (2010) *Am J Epidemiol*. 172. 419-429.
 9. Patel AV, Feigelson HS, Talbot JT, McCullough ML, Rodriguez C, Patel RC, Thun MJ, Calle EE. The role of body weight in the relationship between physical activity and endometrial cancer: results from a large cohort of US women. (2008) *Int J Cancer*. 123. 1877-1882.
 10. Patel AV, Rodriguez C, Pavluck AL, Thun MJ, Calle EE. Recreational physical activity and sedentary behavior in relation to ovarian cancer risk in a large cohort of US women. (2006) *Am J Epidemiol*. 163. 709-716.
 11. Stamatakis E, Hamer M, Dunstan DW. Screen-based entertainment time, all-cause mortality, and cardiovascular events: population-based study with ongoing mortality and hospital events follow-up. (2011) *J Am Coll Cardiol*. 57. 292-299.
 12. Warren TY, Barry V, Hooker SP, Sui X, Church TS, Blair SN. Sedentary behaviors increase risk of cardiovascular disease mortality in men. (2010) *Med Sci Sports Exerc*. 42. 879-885.
6. 握力の参照値算出に用いた文献
1. Al Snih S, Markides KS, Ray L, Ostir GV, Goodwin JS. Handgrip strength and mortality in older Mexican Americans. (2002) *J Am Geriatr Soc*. 1250-6.
 2. Cawthon PM, Fullman RL, Marshall L, Mackey DC, Fink HA, Cauley JA, Cummings SR, Orwoll ES, Ensrud KE. Physical performance and risk of hip fractures in

- older men. (2008) *J Bone Miner Res.* 23. 1037-1044.
3. Fujita Y, Nakamura Y, Hiraoka J, Kobayashi K, Sakata K, Nagai M, Yanagawa H. Physical-strength tests and mortality among visitors to health-promotion centers in Japan. (1995) *J Clin Epidemiol.* 48. 1349-59.
 4. Ling CH, Taekema D, de Craen AJ, Gussekloo J, Westendorp RG, Maier AB. Handgrip strength and mortality in the oldest old population: the Leiden 85-plus study. (2010) *CMAJ.* 182. 429-435.
 5. Portegijs E, Rantanen T, Sipilä S, Laukkanen P, Heikkinen E. Physical activity compensates for increased mortality risk among older people with poor muscle strength. (2007) *Scand J Med Sci Sports.* 17. 473-479.
 6. Rantanen T, Volpato S, Ferrucci L, Heikkinen E, Fried LP, Guralnik JM. Handgrip strength and cause-specific and total mortality in older disabled women: exploring the mechanism. (2003) *J Am Geriatr Soc.* 51. 636-41.
 7. Shinkai S, Watanabe S, Kumagai S, Fujiwara Y, Amano H, Yoshida H, Ishizaki T, Yukawa H, Suzuki T, Shibata H. Walking speed as a good predictor for the onset of functional dependence in a Japanese rural community population. (2000) *Age Ageing.* 29. 441-446.
- measures as predictors of mortality in a cohort of community-dwelling older French women. (2006) *Eur J Epidemiol.* 21. 113-122.
9. Shinkai S, Watanabe S, Kumagai S, Fujiwara Y, Amano H, Yoshida H, Ishizaki T, Yukawa H, Suzuki T, Shibata H. Walking speed as a good predictor for the onset of functional dependence in a Japanese rural community population. (2000) *Age Ageing.* 29. 441-446.
7. 歩行速度の参照値算出に用いた文献
1. Al Snih S, Markides KS, Ray L, Ostir GV, Goodwin JS. Handgrip strength and mortality in older Mexican Americans. (2002) *J Am Geriatr Soc.* 1250-6.
 2. Cawthon PM, Fullman RL, Marshall L, Mackey DC, Fink HA, Cauley JA, Cummings SR, Orwoll ES, Ensrud KE. Physical performance and risk of hip fractures in older men. (2008) *J Bone Miner Res.* 23. 1037-1044.
 3. Cesari M, Kritchevsky SB, Newman AB, Simonsick EM, Harris TB, Penninx BW, Brach JS, Tylavsky FA, Satterfield S, Bauer DC, Rubin SM, Visser M, Pahor M: Health, Aging and Body Composition Study. Added value of physical performance measures in predicting adverse health-related events: results from the Health, Aging And Body Composition Study. (2009) *J Am Geriatr Soc.* 57. 251-9.
 4. Cesari M, Pahor M, Marzetti E, Zamboni V, Colloca G, Tosato M, Patel KV, Tovar JJ, Markides K. Self-assessed health status, walking speed and mortality in older Mexican-Americans. (2009) *Gerontology.* 55. 194-201.
 5. Dargent-Molina P, Favier F, Grandjean H, Baudoin C, Schott AM, Hausherr E, Meunier PJ, Breart G. Fall-related factors and risk of hip fracture: the EPIDOS prospective study. (1996) *Lancet.* 348. 145-9.
 6. Mozaffarian D, Furberg CD, Psaty BM, Siscovick D. Physical activity and incidence of atrial fibrillation in older adults: the cardiovascular health study. (2008) *Circulation.* 118. 800-807.
 7. Ostir GV, Kuo YF, Berges IM, Markides KS, Ottenbacher KJ. Measures of lower body function and risk of mortality over 7 years of follow-up. (2007) *Am J Epidemiol.* 166. 599-605.
 8. Rolland Y, Lauwers-Cances V, Cesari M, Vellas B, Pahor M, Grandjean H. Physical performance

II

Adult Mortality Attributable to Preventable Risk Factors for Non-Communicable Diseases and Injuries in Japan: A Comparative Risk Assessment

Nayu Ikeda^{1*}, Manami Inoue², Hiroyasu Iso³, Shunya Ikeda⁴, Toshihiko Satoh⁵, Mitsuhiko Noda⁶, Tetsuya Mizoue⁷, Hironori Imano³, Eiko Saito¹, Kota Katanoda⁸, Tomotaka Sobue⁸, Shoichiro Tsugane², Mohsen Naghavi⁹, Majid Ezzati¹⁰, Kenji Shibuya¹

1 Department of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan, **2** Epidemiology and Prevention Division, Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo, Japan, **3** Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan, **4** International University of Health and Welfare Graduate School, Tokyo, Japan, **5** Kitasato Clinical Research Center, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Japan, **6** Department of Diabetes and Metabolic Medicine, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, **7** Department of Epidemiology and International Health, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, **8** Cancer Information Services and Surveillance Division, Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Tokyo, Japan, **9** Institute for Health Metrics and Evaluation, University of Washington, Seattle, Washington, United States of America, **10** MRC-HPA Centre for Environment and Health, Department of Epidemiology and Biostatistics, School of Public Health, Imperial College London, London, United Kingdom

Abstract

Background: The population of Japan has achieved the longest life expectancy in the world. To further improve population health, consistent and comparative evidence on mortality attributable to preventable risk factors is necessary for setting priorities for health policies and programs. Although several past studies have quantified the impact of individual risk factors in Japan, to our knowledge no study has assessed and compared the effects of multiple modifiable risk factors for non-communicable diseases and injuries using a standard framework. We estimated the effects of 16 risk factors on cause-specific deaths and life expectancy in Japan.

Methods and Findings: We obtained data on risk factor exposures from the National Health and Nutrition Survey and epidemiological studies, data on the number of cause-specific deaths from vital records adjusted for ill-defined codes, and data on relative risks from epidemiological studies and meta-analyses. We applied a comparative risk assessment framework to estimate effects of excess risks on deaths and life expectancy at age 40 y. In 2007, tobacco smoking and high blood pressure accounted for 129,000 deaths (95% CI: 115,000–154,000) and 104,000 deaths (95% CI: 86,000–119,000), respectively, followed by physical inactivity (52,000 deaths, 95% CI: 47,000–58,000), high blood glucose (34,000 deaths, 95% CI: 26,000–43,000), high dietary salt intake (34,000 deaths, 95% CI: 27,000–39,000), and alcohol use (31,000 deaths, 95% CI: 28,000–35,000). In recent decades, cancer mortality attributable to tobacco smoking has increased in the elderly, while stroke mortality attributable to high blood pressure has declined. Life expectancy at age 40 y in 2007 would have been extended by 1.4 y for both sexes (men, 95% CI: 1.3–1.6; women, 95% CI: 1.2–1.7) if exposures to multiple cardiovascular risk factors had been reduced to their optimal levels as determined by a theoretical-minimum-risk exposure distribution.

Conclusions: Tobacco smoking and high blood pressure are the two major risk factors for adult mortality from non-communicable diseases and injuries in Japan. There is a large potential population health gain if multiple risk factors are jointly controlled.

Please see later in the article for the Editors' Summary.

Citation: Ikeda N, Inoue M, Iso H, Ikeda S, Satoh T, et al. (2012) Adult Mortality Attributable to Preventable Risk Factors for Non-Communicable Diseases and Injuries in Japan: A Comparative Risk Assessment. PLoS Med 9(1): e1001160. doi:10.1371/journal.pmed.1001160

Academic Editor: Peter Byass, Umeå Centre for Global Health Research, Sweden

Received: July 28, 2011; **Accepted:** December 6, 2011; **Published:** January 24, 2012

Copyright: © 2012 Ikeda et al. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License, which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original author and source are credited.

Funding: This research was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research from the Ministry of Health, Labour and Welfare (H22-seisaku-shitei-033) and a Grant-in-Aid for Scientific Research (B) from the Japan Society for the Promotion of Science (No. 2239013). The funders had no role in study design, data collection and analysis, decision to publish, or preparation of the manuscript.

Competing Interests: The authors have declared that no competing interests exist.

Abbreviations: CI, confidence interval; HTLV-1, human T-lymphotropic virus type 1; LDL, low density lipoprotein; NHNS, National Health and Nutrition Survey

* E-mail: ikedan@m.u-tokyo.ac.jp

Introduction

Controlling risk factors for non-communicable diseases and external causes is essential for the improvement of adult health. Chronic diseases and injuries are the leading causes of global mortality, accounting for 63% and 9%, respectively, of 57 million deaths in 2008 [1]. The five major risk factors for deaths in the world are high blood pressure, tobacco use, high blood glucose, physical inactivity, and overweight and obesity, which contribute to non-communicable diseases and are modifiable with effective interventions [2]. In such an environment, informed decision-making on priority setting for health policies and programs needs consistent and comparative evidence about how many deaths would be averted by changing profiles of preventable risk factors in a population.

The population of Japan has the longest life expectancy at birth in the world. Life expectancy at birth for Japanese women was 54.0 y in 1947 and rapidly increased until 1986, at which point, at 81.0 y, it became the longest in the world for the first time; female life expectancy at birth also reached its highest ever worldwide figure, 86.4 y, in Japan in 2009 [3]. The continuous extension of longevity was largely explained by a decline in the rate of mortality for communicable diseases among children and young adults during the 1950s and the early 1960s and for stroke since the late 1960s [4]. Current leading causes of death are malignant neoplasm, heart disease, and cerebrovascular disease, accounting for more than 50% of total deaths in 2009 [5]. Accidental injuries and suicide have also ranked in the top ten causes of death for the past 50 y [5], and particularly suicide in the working population is a serious social problem reflecting the prolonged economic recession since the 1990s [4]. To further enhance the health status of the Japanese population, it is therefore crucial to prevent deaths from these major causes.

With the aim of increasing the nation's health through the prevention of premature deaths from lifestyle-related diseases, the Japanese government initiated a 10-y national health promotion campaign called Health Japan 21 in 2000 [6]. In this campaign, 59 indicators were established to monitor and improve the management of risk factors and diseases such as diet, smoking, and diabetes. However, the performance of Health Japan 21 was not necessarily satisfactory: there was progress on 60% of the 59 indicators, including decreasing daily salt intake, while deterioration or no improvement was observed for the remaining 40%, for example, the prevalence of overweight and obesity decreased in women aged 40–60 y but increased in men aged 20–60 y [7]. Success of national health promotion campaigns may partly depend on whether the stewardship of central and local governments exists for coordinating diverse activities and investing resources in priority areas with reference to scientific evidence on the disease burden attributable to modifiable risk factors. Although a number of past studies have quantified population-attributable fractions or impacts on life expectancy for individual risk factors in Japan [8–16], no study to our knowledge has used a single comprehensive framework to assess and compare these impacts across multiple risk factors.

In the present study, we therefore aimed to provide the most comprehensive and comparative assessment of preventable risk factors for mortality from non-communicable diseases and injuries in the Japanese adult population. We employed a comparative risk assessment strategy to quantify contributions of health risks to disease outcomes [17,18]. This standard systematic approach has already been applied to examine the burden of disease and injury across major risk factors in a few other countries [19–22]. Using

national data sources on risk exposures and cause-specific mortality, as well as epidemiologic evidence on their causal association from large-scale prospective studies and meta-analyses in Japan, this analysis identifies the most important risk factors for deaths and life expectancy at the population level; the results could inform policymakers of which risk factors need to be prioritized in formulating and revising health policies and programs.

Methods

We estimated the number of deaths that would have been saved in 2007 if multiple risk factors had been controlled at their optimal levels as determined by a theoretical-minimum-risk exposure distribution. To quantify and compare the mortality attributable to excess health risks, we used comparative risk assessment methods that have been described in detail elsewhere [18,20]. To summarize, we first calculated the population-attributable fraction of cause-specific mortality for each risk factor, which measures a proportional reduction in mortality that would be achieved if risk factor exposures of a population shifted to an alternative counterfactual distribution that is more favorable. We used the following formula to calculate population-attributable fractions for continuous exposure variables:

Population – attributable fraction =

$$\frac{\int_x RR(x)P(x)dx - \int_x RR(x)P'(x)dx}{\int_x RR(x)P(x)dx}, \quad (1)$$

where $P(x)$ and $P'(x)$ are actual and counterfactual distributions of exposure in the population, respectively, and $RR(x)$ is the relative risk of mortality at exposure level x . The first and second terms in the numerator of this equation represent the total risk of mortality weighted by exposures in the population under current and counterfactual distributions, respectively. This approach allowed us to compute effects of all nonoptimal exposures of individuals for all risk factors in a consistent and comparable way [21]. For risks measured in multiple categories, we used the following generalized formula to calculate population-attributable fractions:

$$\text{Population – attributable fraction} = \frac{\sum_{i=1}^n P_i(RR_i - 1)}{\sum_{i=1}^n P_i(RR_i - 1) + 1}, \quad (2)$$

where i signifies the level of individual categories ($i = 1, \dots, n$).

We then multiplied the number of cause-specific deaths by population-attributable fractions to estimate mortality from diseases (causes of death) associated with each risk factor. The number of deaths attributable to a single risk factor was summed across different causes to obtain the total number of deaths attributable to that risk factor. The number of deaths from a single cause, however, could not be added across risk factors, because they may be causally related and we did not account for such relationships in the estimation of population-attributable fractions of individual risk factors.

We conducted all analyses separately by sex, using Stata version 11 (StataCorp). We restricted analyses to individuals aged 30 y and over, because the number of deaths from non-communicable

diseases is small for younger ages. However, we included those aged 20 to 29 y when estimating deaths from external causes attributable to alcohol use, because the burden was assumed to be substantial in this age group.

Mortality Data

We obtained data on the number of cause-specific deaths in 2007 from vital records [23]. We applied algorithms developed for the Global Burden of Disease 2010 Study to redistribute ill-defined codes (e.g., cardiac arrest, heart failure, and senility) on death certificates that were not supposed to be underlying causes of death [24,25]. This method enabled us to obtain valid, reliable, and comparable data on cause-specific mortality by ensuring consistency and resolving changes across revisions of the *International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems*.

Selection of Risk Factors and Diseases

We included 16 risk factors in this analysis (Table 1). In the selection of risk factors paired with their relevant diseases or injuries, we employed the criteria of a previous study: (i) an availability of evidence on causality or association from high-quality epidemiological studies, (ii) an existence of interventions to modify exposures, and (iii) an availability of data on risk exposures from nationally representative surveys or large population studies [20]. We also included infection by several agents—hepatitis B virus, hepatitis C virus, the bacterium *Helicobacter pylori*, human papillomavirus, and human T-lymphotropic virus type 1 (HTLV-

1)—because they are important risk factors for cancer deaths in Japan [26,27].

Measures and Data Sources of Risk Factor Exposures

Table 2 lists measurements and data sources for the risk factor exposures used in this analysis, and Table 3 shows their basic statistics by sex and age group in 2007. With the exception of tobacco smoking, infections, and alcohol use related to deaths from traffic road accidents, we used individual records from the National Health and Nutrition Survey (NHNS) in 2007. NHNS was a survey based on a nationally representative probabilistic sample to provide data on the health and nutritional status of the Japanese population. This survey included an in-person interview on medication use and lifestyle-related risk factors, a physical examination by health care professionals, and self-administered questionnaires on diet and lifestyle [28].

We used self-reports to quantify exposures to physical inactivity and alcohol use, while we used measured data for other risk factors. In the physical examination for the 2007 NHNS, a blood test was intended to be conducted more than 4 h after a meal, although a number of blood samples were actually drawn less than 4 h after a meal. Because fasting plasma glucose was the unit for relative risk for high blood glucose adopted in the present study, we applied the following conversion equation proposed by the Committee of the Japan Diabetes Society [29,30] to predict equivalents of fasting plasma glucose from measurements of hemoglobin A1c:

Table 1. Risk factors and disease outcomes included in the study.

Risk Factor	Disease Outcomes
High blood glucose	IHD, stroke, diabetes mellitus
High LDL cholesterol	IHD, ischemic stroke
High blood pressure	IHD, stroke, hypertensive diseases, other cardiovascular diseases ^a
Overweight/obesity	IHD; ischemic stroke; hypertensive disease; postmenopausal breast, colon, corpus uteri, kidney, and pancreatic cancers; diabetes mellitus
Alcohol use	IHD; ischemic stroke; hemorrhagic stroke; hypertensive diseases; cardiac arrhythmias; cancers of breast, colorectal, esophagus, mouth, liver, larynx, pharynx, and selected other sites ^b ; diabetes mellitus; liver cirrhosis; acute and chronic pancreatitis; road traffic injuries; falls; homicide and suicide; other injuries
Tobacco smoking	IHD; stroke; aortic aneurysms and dissection; diabetes mellitus; lung, esophagus, mouth, pharynx, stomach, liver, pancreas, cervix, bladder, kidney, and other urinary cancers; leukemia; chronic obstructive pulmonary disease; lower respiratory tract infections; asthma; tuberculosis
Physical inactivity	IHD, ischemic stroke, breast and colon cancers, diabetes mellitus
High dietary trans fatty acids	IHD
Low dietary polyunsaturated fatty acids	IHD
High dietary salt	IHD, stroke, hypertensive disease, other cardiovascular diseases ^a , stomach cancer
Low intake of fruit and vegetables	IHD; ischemic stroke; colorectal, esophagus, lung, mouth, pharynx, and stomach cancers
Hepatitis B virus	Liver cancer
Hepatitis C virus	Liver cancer
<i>H. pylori</i>	Stomach cancer
Human papillomavirus	Cervix uteri cancer
HTLV-1	Adult T-cell lymphoma/leukemia

^aThis category includes rheumatic heart disease, endocarditis, cardiomyopathy, aortic aneurysms, peripheral vascular disorders, and other ill-defined cardiovascular diseases.

^bThis category includes *International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th edition* (ICD-10) codes D00–D24 (except D09.9), D26–D37 (except D37.9), and D38–D48 (except D38.6, D39.9, D40.9, D41.9, and D48.9).

IHD, ischemic heart disease.

doi:10.1371/journal.pmed.1001160.t001

Table 2. Measurements, data sources, and alternative distributions of risk exposures.

Risk Factor, Exposure Metric, Data Source ^a	Optimal	Guidelines/National Goals
High blood glucose		
Fasting plasma glucose (mmol/l)	4.9 (0.3)	5.6 (0.3) [66]
High LDL cholesterol		
LDL cholesterol (mmol/l)	2.0 (0.4)	3.1 (0.7) [54]
High blood pressure		
Systolic blood pressure (mm Hg)	115 (6)	130 (7) [53]
Overweight/obesity		
Body mass index (kg/m ²)	21 (1)	22 (1) [67]
Alcohol use		
Current alcohol consumption volumes and patterns	No alcohol use ^b	
Alcohol-related road traffic accidents, national road accident data, 2004 [40]	No alcohol use	
Tobacco smoking		
Smoking impact ratio, vital statistics 2007 data [23–25], pooled cohort studies [15,35,36]	No smoking	
Physical inactivity		
Intensity of physical activity	Highly active	
High dietary trans fatty acids		
Percent of total calories from dietary trans fatty acids	0.5 (0.05)	
Low dietary polyunsaturated fatty acids		
Percent of total calories from dietary polyunsaturated fatty acids	10 (1)	
High dietary salt		
Dietary sodium adjusted for total calories (g/d)	0.5 (0.05)	10 (1) [7]
Low intake of fruit and vegetables		
Dietary fruit and vegetable intake adjusted for total calories (g/d)	600 (50)	350 (29) [7]
Hepatitis B virus		
Seropositivity for hepatitis B surface antigen, blood donors' cohort, 1991–1993 [37]	No infection	
Hepatitis C virus		
Seropositivity for antibody to hepatitis C, blood donors' cohort, 1991–1993 [37]	No infection	
<i>H. pylori</i>		
Seropositivity for anti- <i>H. pylori</i> immunoglobulin G, multi-center study, late 1990s [38]	No infection	

Values are means, with standard deviations in parentheses.

^aWe obtained exposure data from the 2007 National Health and Nutrition Survey [28] unless stated otherwise.

^bThe optimal category for liver cancer and suicide was "occasional drinkers" because previous studies used it as the reference category for estimation of relative risks. doi:10.1371/journal.pmed.1001160.t002

$$\text{Fasting plasma glucose (mg/dl)} = -9.2 + 21.9 \times \text{hemoglobin A1c}_{\text{JDS}} (\%) \quad (3)$$

where hemoglobin A1c_{JDS} is a value standardized by calibrators provided by the Japan Diabetes Society and lower than an internationally used value by around 0.4% [29]. As a minor adjustment, we further deducted from this equation a difference in means between predicted fasting plasma glucose and measured casual plasma glucose among 165 participants in the 2007 NHNS who had fasted for more than 8 h (6.4 mg/dl).

In the NHNS, health care professionals measured the blood pressure of seated persons in their right upper arm after 5 min of rest, using a Riva-Rocci mercury manometer. For a trend analysis of cardiovascular mortality attributable to high blood pressure, which is described below, we used the National Nutrition Surveys for 1980–2002 and the NHNS for 2003–2007. These surveys took only one blood pressure measurement per individual until starting

to collect two measurements per individual in the 2000 survey. We therefore used a single measurement for the surveys in 1980–1999 and the second measurement for the 2000–2007 surveys. We excluded pregnant or breastfeeding women from the analysis of blood pressure.

For dietary risk exposure variables, dietitians visited households to distribute questionnaires and explain the survey method for diet and lifestyle. Household representatives weighed and recorded the quantity of each food item consumed for one day (excluding holidays). Dietitians visited households again during the survey period to check and correct completed questionnaires. We estimated intakes of dietary trans fatty acids using conversion factors of food items provided by the Cabinet of Japan Food Safety Committee [31]. Considering that nutrition intakes are correlated with energy intake determined by body size, physical activity, and metabolic efficiency, we adjusted intakes of fruit, vegetables, and dietary sodium for total energy intake with a simple linear regression equation having nutrient intake as a dependent variable and total caloric intake as an

Table 3. Exposure to risk factors by sex and age group in 2007.

Sex, Risk Factor	Age														
	30–44 y			45–59 y			60–69 y			70–79 y			≥80 y		
	<i>n</i> ^a	Mean	SE	<i>n</i> ^a	Mean	SE	<i>n</i> ^a	Mean	SE	<i>n</i> ^a	Mean	SE	<i>n</i> ^a	Mean	SE
Men															
Fasting plasma glucose (mmol/l)	300	5.4	0.1	374	5.7	0.0	411	6.0	0.1	339	5.9	0.0	107	5.9	0.1
LDL cholesterol (mmol/l)	300	3.3	0.0	375	3.4	0.0	413	3.1	0.0	340	3.0	0.0	108	2.9	0.1
Systolic blood pressure (mm Hg)	312	124.2	0.8	394	133.9	0.9	427	140.9	0.9	359	142.2	1.0	116	144.1	1.8
Body mass index (kg/m ²)	673	23.9	0.1	777	23.8	0.1	620	23.8	0.1	470	23.6	0.2	155	22.6	0.3
Dietary TFA (% of total calories)	806	0.3	0.0	858	0.3	0.0	664	0.2	0.0	517	0.2	0.0	179	0.3	0.0
Dietary PUFA (% of total calories)	806	5.7	0.1	858	5.6	0.1	664	5.3	0.1	517	5.1	0.1	179	5.0	0.1
Dietary SFA (% of total calories)	806	6.8	0.1	858	6.2	0.1	664	5.7	0.1	517	5.6	0.1	179	5.9	0.2
Dietary salt intake (g/d)	806	11.4	0.2	858	12.3	0.2	664	12.6	0.2	517	12.2	0.2	179	10.9	0.3
Fruit and vegetable intake (g/d)	804	288.6	6.0	856	342.5	6.6	663	432.3	8.8	515	446.8	9.6	178	463.5	15.9
Never or former drinkers (%) ^b	850	26.6	1.5	950	25.9	1.4	699	28.9	1.7	525	40.8	2.1	184	55.4	3.7
Alcohol-related accidents/four-wheel vehicle road traffic accidents, 2004 (%) [40] ^c		1.7			1.7			1.7			1.7			1.7	
Have intense physical activity (%)	808	34.8	1.7	869	34.5	1.6	667	28.8	1.8	518	42.1	2.2	179	21.8	3.1
Never or former smokers (%)	850	45.2	1.7	946	53.6	1.6	698	65.9	1.8	524	78.6	1.8	184	82.1	2.8
Smoking impact ratio		0.0			0.6			0.5			0.5			0.7	
Hepatitis B virus (%) [37]		0.9			0.9			0.9			0.6			0.6	
Hepatitis C virus (%) [37]		0.6			1.6			2.6			7.9			7.9	
<i>H. pylori</i> (%) [38]		23.6			47.4			66.1			73.4			72.6	
Women															
Fasting plasma glucose (mmol/l)	563	5.3	0.0	620	5.7	0.0	523	5.9	0.0	408	5.9	0.0	154	5.9	0.1
LDL cholesterol (mmol/l)	565	2.9	0.0	622	3.4	0.0	523	3.5	0.0	410	3.3	0.0	154	3.2	0.1
Systolic blood pressure (mm Hg)	527	112.4	0.6	652	128.1	0.8	560	135.8	0.8	433	138.9	0.8	170	143.2	1.4
Body mass index (kg/m ²)	874	21.4	0.1	905	22.7	0.1	723	23.3	0.1	534	23.1	0.2	248	22.4	0.3
Dietary TFA (% of total calories)	955	0.4	0.0	957	0.3	0.0	762	0.3	0.0	561	0.3	0.0	285	0.2	0.0
Dietary PUFA (% of total calories)	955	5.9	0.1	957	6.0	0.1	762	5.6	0.1	561	5.3	0.1	285	5.3	0.1
Dietary SFA (% of total calories)	955	7.8	0.1	957	7.0	0.1	762	6.2	0.1	561	5.9	0.1	285	5.7	0.2
Dietary salt intake (g/d)	955	9.6	0.1	957	10.7	0.1	762	10.9	0.2	561	10.6	0.2	285	10.0	0.2
Fruit and vegetable intake (g/d)	951	346.0	6.1	957	460.2	7.6	761	541.3	9.0	561	522.8	9.7	284	490.3	13.2
Never or former drinkers (%) ^b	1,014	54.9	1.6	1,047	61.1	1.5	795	75.5	1.5	579	83.4	1.5	310	88.7	1.8
Alcohol-related accidents/four-wheel vehicle road traffic accidents, 2004 (%) [40] ^c		1.7			1.7			1.7			1.7			1.7	
Have intense physical activity (%)	958	36.3	1.6	959	40.9	1.6	765	39.0	1.8	562	45.4	2.1	286	21.3	2.4
Never or former smokers (%)	1,014	81.8	1.2	1,047	87.1	1.0	794	92.1	1.0	579	96.5	0.8	310	95.5	1.2
Smoking impact ratio		0.0			0.1			0.2			0.2			0.2	
Hepatitis B virus (%) [37]		0.5			0.5			0.5			0.6			0.6	
Hepatitis C virus (%) [37]		0.4			1.6			3.5			7.0			7.0	
<i>H. pylori</i> (%) [38]		23.6			47.4			66.1			73.4			72.6	

^aSample size in the National Health and Nutrition Survey in 2007.

^bFor those aged 20–29 y, the mean (standard error) was 40.4 (2.7) in men (*n* = 324) and 53.9 (2.5) in women (*n* = 395).

^cReported for the total age group of both sexes combined.

PUFA, polyunsaturated fatty acids; SE, standard error; SFA, saturated fatty acids; TFA, trans fatty acids.

doi:10.1371/journal.pmed.1001160.t003

independent variable [32]. Calorie-adjusted nutrient intakes were computed as the sum of residuals from the regression model and the expected nutrient intake for a person with mean caloric intake.

We used a smoking impact ratio as a more reliable indicator of accumulated exposure to tobacco smoking than the prevalence of current smokers. The smoking impact ratio was defined as total lung cancer mortality in excess of never-smokers in a study

population relative to the excess lung cancer mortality among current smokers in a reference population [33,34]. We used the following formula to calculate smoking impact ratios by age group and sex:

$$\text{Smoking impact ratio} = \frac{C_{LC} - N_{LC}}{S_{LC}^* - N_{LC}^*} \times \frac{N_{LC}^*}{N_{LC}}, \quad (4)$$

where C_{LC} and N_{LC} denote lung cancer mortality of the total population and never-smokers, respectively, in a study population (i.e., the Japanese population), and S_{LC}^* and N_{LC}^* signify lung cancer mortality among current smokers and never-smokers, respectively, in a reference population. We obtained total lung cancer mortality from the redistributed data of vital records described above. Our reference population was residents included in a pooled study of three large-scale cohorts in Japan [15,35,36]. Because we also adopted never-smokers' lung cancer mortality in the Japanese population from this pooled study, N_{LC} and N_{LC}^* were equivalent to each other in our analysis.

We obtained data on the prevalence of infections with hepatitis B and C viruses and the bacterium *H. pylori* from epidemiological studies undertaken in Japan in the 1990s [37,38]. Assuming that infection rates do not vary within birth cohorts over time, we applied infection rates by age group in the 1990s to those of corresponding age in 2007. For example, the infection rate for hepatitis B virus in men aged 60–69 y in 2007 was that of men aged 45–54 y in 1991–1993. We considered that all deaths from cervix uteri cancer and adult T-cell lymphoma/leukemia were caused by infections with human papillomavirus and HTLV-1, respectively [26,39].

In order to measure exposure levels of alcohol use related to deaths from road traffic injuries, we employed a proportion of alcohol-impaired driving, which was defined as driving with breath alcohol concentrations above 0 mg/l, to the total number of cases of road traffic accidents involving four-wheeled vehicles and motorcycles in 2004 (1.7%). We obtained this figure from a past study on alcohol concentrations in the breath of drivers, which used a national dataset prepared by the Japan Institute for Traffic Accident Research and Data Analysis [40].

Selection of Relative Risks

Tables S1, S2, S3, S4, S5, S6, S7 provide details of relative risks used in this analysis. We conducted a literature review of prospective studies evaluating effects of risk factors on cause-specific deaths in Japan. Strategies for the database search involved contacting authors of key reports and leading experts in the field, and we critically appraised the identified literature. Our motive for undertaking the literature search was to identify evidence from past studies in the Japanese population to be backed up with pooled evidence establishing causalities or associations from the Global Burden of Disease Study [20]. Criteria for the selection of evidence for the Japanese population were: (i) pooled or individual estimates from large-scale prospective observational studies and (ii) confirming causalities or associations that had been already established in past studies. When there was no study for the Japanese population satisfying these conditions, we sought evidence from the Asia-Pacific Cohort Studies Collaboration. If we could not find evidence from this source, then we adopted relative risks identified in the Global Burden of Disease Study. We considered relative risks to be null if they were statistically insignificant. In addition, we had to restrict the source of evidence on relative risks for tobacco smoking to the pooled analysis of large-scale cohorts in Japan, because we used their estimates of

current smokers' and never-smokers' lung cancer mortality of a reference population to calculate smoking impact ratios. We excluded mortality from tuberculosis and diabetes mellitus associated with tobacco smoking, because the studies did not examine these causes.

Counterfactual Distributions of Risk Exposures

As an alternative distribution of risk exposures, we used an optimal distribution in which harmful effects of each risk factor on morbidity and mortality would be minimized in a population (i.e., a theoretical-minimum-risk exposure distribution). With the exception of infections, we obtained information on theoretical-minimum-risk exposure distributions from a previous study in the United States (Table 2) [20].

In the analysis of gains in life expectancy and probabilities of death, we also investigated alternative counterfactual distributions of risk exposures that followed recommendations of clinical guidelines and goals of Health Japan 21. This analysis enabled quantification of potential health gains that would be more realistic than theoretical minimums. We included risk factors in this part of our analysis only if specific control targets were available from these sources and units of measurement corresponded to those of relative risks (Table 2). In order to obtain counterfactual distributions for numerical risks, we used their control threshold as the mean and applied the coefficient of variation to estimate the standard deviation.

The relationship between dietary salt intake and cardiovascular mortality was based on a convincing effect of high dietary salt on systolic blood pressure that was estimated from a meta-analysis of dietary trials (Table S6) [20]. In order to obtain hazards of excess dietary salt intake on cardiovascular death, we first estimated the decrease in systolic blood pressure associated with a reduction in dietary salt intake to individual optimal levels and then applied relative risks of high systolic blood pressure for relevant cardiovascular diseases (Table S1).

Effects on Life Expectancy and Probabilities of Death

We translated mortality changes into gains in life expectancy at 40 y of age to understand the potential impact of the management of risk factors on longevity. We constructed life tables using observed age-specific mortality rates and mortality that would be expected if risk factor exposures were controlled at alternative levels. We took the differences between these values as showing life expectancy gains that would occur when shifting from an actual risk factor exposure to a counterfactual. We also calculated effects on probabilities of dying between the ages of 15 and 60 y ($_{45}q_{15}$) and between 60 and 75 y ($_{15}q_{60}$).

Joint Effects of Multiple Risk Factors for Cardiovascular Mortality

We estimated joint effects of multiple risk factors on excess mortality from cardiovascular diseases and the additional life expectancy at age 40 y that would be achieved under counterfactual distributions. Risk factors included in this part of the analysis were high body mass index, high blood pressure, and high concentrations of blood glucose and low density lipoprotein (LDL) cholesterol. We took account of high dietary sodium intake to compensate for its indirect effect through elevated blood pressure, using the steps described above. We also adopted a 50% reduction of the excess risk of high body mass index on cardiovascular deaths to incorporate a mediation of its associations through other risk factors [21]. We used an additive excess risk scale to correct for correlations of these risk factors and calculate joint relative risks at

the individual level. This approach has been described in detail elsewhere [21]. We summed the combined relative risks for individual records to compute population-attributable fractions for the joint effects of these cardiovascular risks.

Long-Term Trends in Attributable Deaths

To examine contributions of the management of modifiable risk factors to the improvement of life expectancy over time, we estimated the number of deaths from cancers attributable to tobacco smoking and deaths from stroke associated with high blood pressure from 1980 to 2007. We employed the algorithm described above to obtain consistent mortality data throughout this period, from which we used total lung cancer mortality in each year to calculate smoking impact ratios over time. For the analysis of high blood pressure and stroke, we excluded people over 80 y of age because the sample size was insufficient. We also incorporated the above-mentioned mediated effects of dietary sodium intake through raised blood pressure at the individual level.

Uncertainty Analyses

We conducted statistical simulation to deal with the uncertainty that was introduced by using sample estimates for risk exposures and relative risks [41]. To account for sampling variability, we randomly drew 1,000 sets of values of all components based on samples. In each sequential step of the simulation, we drew for each age–sex group: (i) a random sample of participants in the 2007 NHNS with replacement to obtain the original sample size of those who had no missing value for each risk factor, (ii) a relative risk for each risk–disease pair from a log-normal distribution with means and standard deviations reported in epidemiological studies, (iii) coefficients of the regression of hemoglobin A1c on fasting plasma glucose from a normal distribution with standard deviations that we calculated from information given in a past study (1.0 for the constant term and 0.2 for the coefficient of hemoglobin A1c) [30], (iv) the difference in means between predicted fasting plasma glucose and measured casual plasma glucose in the 2007 NHNS from a normal distribution with mean of 6.4 mg/dl and standard deviation of 1.1 mg/dl that we estimated from the survey data, (v) the proportion of the excess risk of body mass index mediated through systolic blood pressure and fasting plasma glucose from a normal distribution with mean of 0.5 and standard deviation of 0.1 [21], and (vi) lung cancer mortality of current smokers and never-smokers from a normal distribution with means and standard deviations estimated from the pooled analysis of Japanese cohorts [15,35]. We used each sampled set of risk exposures and relative risks to compute population-attributable fractions, mortality attributable to each risk factor or a combination of risk factors, and changes in life expectancy under counterfactual distributions. We defined a 95% confidence interval (CI) by a span across the estimates of each outcome at the 2.5th and 97.5th percentiles of the 1,000 simulations.

Results

Contributions of Health Risks to Cause-Specific Mortality in 2007

Tables S8 and S9 provide population-attributable fractions of the 16 modifiable risk factors and a combination of physiological risk factors for mortality from non-communicable diseases and injuries by age group and sex in 2007. These fractions cannot be summed across risk factors for a single cause of death, because causal relationships between risk factors are not considered in the analysis of individual risk factors.

Under the theoretically minimum counterfactuals listed in Table 2, tobacco smoking and high blood pressure were the two major single contributors to the number of deaths from non-communicable diseases and injuries (Table 4). Among the total of 960,000 deaths from causes included in this study, tobacco smoking was associated with 129,000 deaths (95% CI: 115,000–154,000). Approximately three-quarters of these deaths occurred in men (95,000 deaths, 95% CI: 88,000–103,000), although the attributable mortality was still substantial for women (34,000 deaths, 95% CI: 23,000–57,000). In men, 70% of deaths attributable to this risk factor were caused by cancers and took place among those aged 45–79 y. In women, cardiovascular diseases and cancers accounted for 42% and 36%, respectively, of the mortality attributable to tobacco smoking. By disease subtypes for sexes combined, lung cancer was the leading cause (42,000 deaths, 95% CI: 39,000–45,000), followed by ischemic heart disease (27,000 deaths, 95% CI: 19,000–42,000) and chronic obstructive pulmonary disease (13,000 deaths, 95% CI: 9,000–16,000).

High blood pressure was associated with 104,000 cardiovascular deaths (95% CI: 86,000–119,000) in 2007. This was the greatest risk factor for cardiovascular mortality of all risk factors included in this analysis, and the mortality burden was shared evenly between the sexes. A majority of deaths attributable to high blood pressure occurred among people aged 70 y and over (85,000 deaths) and were caused by stroke (47,000 deaths, 95% CI: 38,000–56,000) or ischemic heart disease (28,000 deaths, 95% CI: 15,000–39,000).

Although the numbers of attributable deaths for other physiological, lifestyle, dietary, and infectious factors were small when compared to those for tobacco smoking and high blood pressure, most of these other factors were associated with tens of thousands of deaths from non-communicable diseases and external causes. Physical inactivity was associated with 52,000 deaths (95% CI: 47,000–58,000), and 75% of them occurred among people aged 70 y and older. Ischemic heart disease was the major cause of mortality attributable to this risk factor (31,000 deaths, 95% CI: 28,000–35,000). High blood glucose was associated with 34,000 deaths (95% CI: 26,000–43,000), of which 75% occurred among people aged 70 y and over and 68% were caused by ischemic heart disease. High dietary salt intake was associated with 19,000 cardiovascular deaths (95% CI: 16,000–22,000), which were included in cardiovascular mortality attributable to high blood pressure, and there were 15,000 deaths from stomach cancer (95% CI: 9,000–20,000). Seventy-six percent of deaths attributable to this risk factor occurred among people aged 70 y and over.

Alcohol use was associated with 31,000 deaths (95% CI: 27,000–35,000) from non-communicable diseases and injuries, 84% of which occurred among men. A major cause of death attributable to this risk factor was liver cirrhosis (11,000 deaths, 95% CI: 10,000–12,000), followed by liver cancer (6,000 deaths, 95% CI: 4,000–8,000), esophagus cancer (5,000 deaths, 95% CI: 4,000–5,000), and colon cancer (4,000 deaths, 95% CI: 4,000–5,000). Alcohol use was associated with 3,000 (95% CI: 2,000–5,000) out of 83,000 deaths of people aged 20 y and over from external causes included in this study. Two thousand deaths were from suicide (95% CI: 1,000–4,000), and there were fewer than 1,000 deaths each attributable to falls, road traffic accidents, homicide, and other injuries. Most of the suicide deaths attributable to alcohol use occurred among men, particularly those aged 30 to 59 y (71%).

Infection with *H. pylori* was associated with 31,000 deaths from gastric cancer in 2007 (95% CI: 27,000–34,000). Seventy-two

Table 4. The number of deaths attributable to risk factors in Japan, 2007 (in thousands).

Sex, Risk Factor	Total	Cardiovascular	Cancer	Diabetes Mellitus	Respiratory	Other NCD	Injuries
Sexes combined							
High blood glucose	34.1 (26.4, 43.1)	27.2 (19.5, 36.2)		6.9			
High LDL cholesterol	23.9 (16.7, 31.2)	23.9 (16.7, 31.2)					
High blood pressure	103.9 (86.0, 119.1)	103.9 (86.0, 119.1)					
High body mass index	19.0 (16.1, 21.9)	13.8 (11.1, 16.4)	4.1 (3.4, 4.9)	1.1 (0.8, 1.3)			
Alcohol use	30.6 (27.5, 34.7)	-2.0 (-4.0, 0.0)	18.2 (16.2, 20.8)	-0.1 (-0.1, -0.1)		11.6 (10.6, 12.7)	2.9 (1.9, 4.6)
Tobacco smoking	128.9 (115.5, 153.6)	33.4 (25.4, 48.8)	77.4 (72.3, 83.9)		18.1 (12.6, 26.4)		
Physical inactivity	52.2 (46.7, 57.7)	42.2 (36.6, 47.6)	9.3 (8.5, 10.0)	0.7 (0.6, 0.9)			
High TFA intake	0.0 (0.0, 0.0)	0.0 (0.0, 0.0)					
Low PUFA intake	21.2 (8.1, 38.7)	21.2 (8.1, 38.7)					
High dietary sodium intake	34.0 (27.3, 39.4)	19.0 (16.1, 22.3)	14.9 (8.8, 19.6)				
Low fruit and vegetable intake	8.9 (6.7, 10.8)	5.1 (3.3, 6.7)	3.8 (2.5, 4.9)				
Hepatitis B virus	11.6 (9.8, 13.5)		11.6 (9.8, 13.5)				
Hepatitis C virus	23.0 (21.3, 24.5)		23.0 (21.3, 24.5)				
<i>H. pylori</i>	30.6 (27.2, 33.5)		30.6 (27.2, 33.5)				
Human papillomavirus	2.6		2.6				
HTLV-1	1.1		1.1				
Joint risk ^a	157.0 (144.0, 173.4)	157.0 (144.0, 173.4)					
Men							
High blood glucose	17.2 (12.7, 22.2)	14.3 (9.8, 19.3)		2.9			
High LDL cholesterol	12.2 (8.1, 15.9)	12.2 (8.1, 15.9)					
High blood pressure	50.1 (39.9, 58.5)	50.1 (39.9, 58.5)					
High body mass index	12.1 (10.0, 14.3)	9.6 (7.6, 11.6)	2.0 (1.6, 2.6)	0.5 (0.4, 0.7)			
Alcohol use	25.8 (22.6, 29.5)	-1.7 (-3.7, 0.2)	15.9 (13.7, 18.2)	-0.1 (-0.1, -0.1)		9.0 (8.2, 9.7)	2.8 (1.7, 4.4)
Tobacco smoking	94.9 (87.7, 103.4)	19.3 (15.4, 24.5)	66.5 (61.8, 71.2)		9.1 (6.8, 10.9)		
Physical inactivity	25.9 (22.8, 29.4)	21.0 (18.1, 24.4)	4.6 (4.0, 5.1)	0.3 (0.3, 0.4)			
High TFA intake	0.0 (0.0, 0.0)	0.0 (0.0, 0.0)					
Low PUFA intake	12.0 (5.3, 29.3)	12.0 (5.3, 29.3)					
High dietary sodium intake	18.4 (13.0, 22.7)	8.8 (7.3, 10.2)	9.7 (4.4, 13.7)				
Low fruit and vegetable intake	7.6 (5.5, 9.5)	4.3 (2.5, 5.9)	3.3 (2.1, 4.4)				
Hepatitis B virus	8.0 (6.6, 9.6)		8.0 (6.6, 9.6)				
Hepatitis C virus	14.8 (13.4, 16.1)		14.8 (13.4, 16.1)				
<i>H. pylori</i>	20.0 (17.0, 22.4)		20.0 (17.0, 22.4)				
HTLV-1	0.6		0.6				
Joint risk ^a	78.5 (70.8, 87.8)	78.5 (70.8, 87.8)					
Women							
High blood glucose	16.9 (11.6, 23.3)	12.9 (7.6, 19.3)		4.0			
High LDL cholesterol	11.7 (6.5, 18.0)	11.7 (6.5, 18.0)					
High blood pressure	53.9 (40.0, 66.9)	53.9 (40.0, 66.9)					
High body mass index	6.8 (5.0, 8.9)	4.2 (2.5, 5.9)	2.1 (1.6, 2.6)	0.5 (0.3, 0.8)			
Alcohol use	4.8 (3.8, 6.3)	-0.3 (-0.5, -0.1)	2.3 (1.7, 3.3)	-0.0 (-0.1, -0.0)		2.6 (2.1, 3.4)	0.2 (0.1, 0.3)
Tobacco smoking	34.0 (22.9, 56.5)	14.1 (7.3, 28.2)	10.9 (8.3, 15.7)		9.0 (4.0, 17.4)		
Physical inactivity	26.3 (21.6, 30.9)	21.2 (16.5, 25.9)	4.7 (4.2, 5.2)	0.4 (0.3, 0.5)			
High TFA intake	0.0 (0.0, 0.0)	0.0 (0.0, 0.0)					
Low PUFA intake	9.3 (4.0, 16.1)	9.3 (4.0, 16.1)					
High dietary sodium intake	15.6 (11.3, 19.2)	10.3 (7.7, 13.1)	5.3 (1.9, 7.5)				

Table 4. Cont.

Sex, Risk Factor	Total	Cardiovascular	Cancer	Diabetes Mellitus	Respiratory	Other NCD	Injuries
Low fruit and vegetable intake	1.3 (0.9, 1.7)	0.8 (0.4, 1.2)	0.5 (0.3, 0.6)				
Hepatitis B virus	3.6 (2.8, 4.5)		3.6 (2.8, 4.5)				
Hepatitis C virus	8.2 (7.3, 9.0)		8.2 (7.3, 9.0)				
<i>H. pylori</i>	10.6 (8.9, 12.0)		10.6 (8.9, 12.0)				
Human papillomavirus	2.6		2.6				
HTLV-1	0.5		0.5				
Joint risk ^a	78.5 (66.9, 91.1)	78.5 (66.9, 91.1)					

Values in parentheses indicate lower and upper bounds of 95% CI.

^aA combination of high blood glucose, high LDL cholesterol, high blood pressure (directly, and indirectly through high dietary salt intake), and high body mass index. NCD, non-communicable disease; PUFA, polyunsaturated fatty acids, TFA, trans fatty acids.

doi:10.1371/journal.pmed.1001160.t004

percent of these deaths occurred among people aged 70 y and older. Infection with hepatitis C virus was associated with 23,000 deaths from liver cancer (95% CI: 21,000–24,000). Forty-five percent of these deaths were in people aged 70–79 y, including those born in the early 1930s. For both *H. pylori* and hepatitis C virus infections, around 65% of the attributable mortality took place in men.

High LDL cholesterol was associated with 24,000 cardiovascular deaths (95% CI: 17,000–31,000), largely from ischemic heart disease (23,000 deaths, 95% CI: 16,000–30,000). Low dietary intake of polyunsaturated fatty acids was associated with 21,000 deaths from ischemic heart disease (95% CI: 8,000–39,000), and 47% of these deaths occurred among people aged 80 y and over. High body mass index was associated with 19,000 deaths (95% CI: 16,000–22,000): 64% of these deaths occurred in men, and ischemic heart disease was the major cause (11,000 deaths, 95% CI: 8,000–13,000).

If systolic blood pressure (directly, and indirectly through dietary salt intake), blood glucose, LDL cholesterol, and body mass index were controlled jointly to their optimal distributions, i.e., theoretical-minimum-risk exposure distributions, 157,000 cardiovascular deaths would have been prevented in 2007 (95% CI: 144,000–173,000). The mortality burden attributable to the combination of these risks was shared equally between the sexes, and a majority of the burden occurred among people aged 70 y and older.

Effects of Risk Factors on Life Expectancy and Probabilities of Death

Japanese life expectancy at age 40 y was 40.4 y for men and 46.8 y for women in 2007 [3]. Figure 1 illustrates gains in life expectancy at age 40 y and percentage changes in probabilities of death that would have been expected in 2007 if risk factors had been controlled to their theoretically minimum distributions individually or jointly with others. For men, tobacco smoking was associated with the largest potential increase in life expectancy at age 40 y (1.8 y, 95% CI: 1.6–1.9), followed by a joint effect of multiple physiological factors (1.4 y, 95% CI: 1.3–1.6) and single effects of high systolic blood pressure (0.9 y, 95% CI: 0.7–1.0) and alcohol use (0.5 y, 95% CI: 0.5–0.6). A considerable part of the smoking effect (1.2 y, 95% CI: 1.1–1.3) was accounted for by an expected associated fall in cancer mortality through a decrease in probabilities of dying between the ages of 15 and 60 (45q15) by 8% (95% CI: 7–10) and between the ages of 60 and 75 (15q60) by 13% (95% CI: 12–14). A drop in cardiovascular mortality through

the joint control of multiple risks was associated with an expected percentage decrease of 13% (95% CI: 12–15) in 45q15 and 11% (95% CI: 10–13) in 15q60, while controlling high blood pressure was associated with an expected fall of 7% both in 45q15 (95% CI: 6–8) and 15q60 (95% CI: 5–8). Decreasing alcohol use was associated with an expected percentage decrease of 9% (95% CI: 7–11) in 45q15 and 5% (95% CI: 5–6) in 15q60 for men. A substantial part of the potential change in the probability of death among young and middle-aged men through moderate drinking was explained by a fall in mortality from other non-communicable diseases including liver cirrhosis and liver cancer (4%, 95% CI: 4–4) and injuries (2%, 95% CI: 1–4).

For women, controlling systolic blood pressure and tobacco smoking to optimal counterfactuals would have extended life expectancy at age 40 y by 0.9 y (95% CI: 0.7–1.1) and 0.6 y (95% CI: 0.4–1.0), respectively. The impact of tobacco smoking on a probability of death in older women was estimated to be 8% (95% CI: 5–13), which was comparable to that of high blood pressure (7%, 95% CI: 6–8). A joint effect of cardiovascular risk factors on female life expectancy at age 40 y was estimated to be 1.4 y (95% CI: 1.2–1.7), with a decrease in probability of death of 8% (95% CI: 7–10) for younger adults and 11% (95% CI: 10–12) for older ages.

Table 5 shows changes in life expectancy at age 40 y and probabilities of death under the more practical counterfactuals defined by clinical guideline recommendations and national goals. Overall, the gains were less than half of those under theoretically minimum distributions. In both sexes, life expectancy at age 40 y would have increased by 0.7 y (95% CI: 0.6–0.9) through the joint control of cardiovascular risks and by 0.4 y (95% CI: 0.3–0.5) through reducing systolic blood pressure to the distribution recommended by clinical guidelines.

Trends in Mortality Attributable to Tobacco Smoking and High Blood Pressure in 1980–2007

Figure 2 illustrates trends in the number of deaths from cancers that were attributable to tobacco smoking from 1980 to 2007. A continuous increase has been observed in men over 70 y old and women over 80 y old. A fall after a peak around 1995 among men aged 60–69 y reflected the fact that the lifetime smoking prevalence reached a peak in the birth cohort of the late 1920s and decreased in the cohort of the late 1930s [42]. This effect manifested again as a peak in attributable cancer mortality around 2005, when the birth cohort of the late 1920s was 70–79 y old. A temporary halt in the increase of cancer deaths attributable to

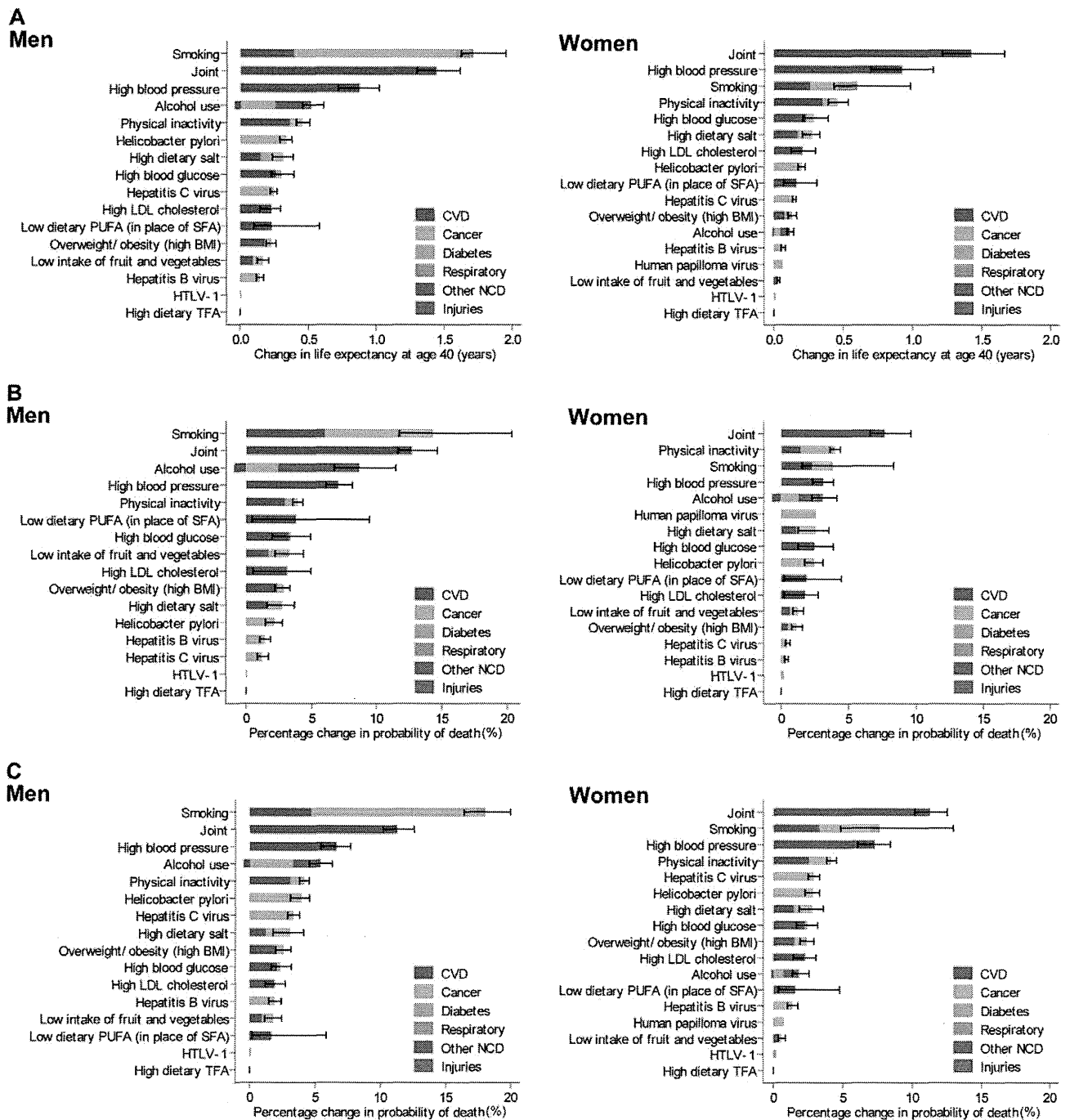


Figure 1. Changes in life expectancy at age 40 y and the probability of death under optimal distributions of risk factors in Japan, 2007. (A) Life expectancy at age 40. (B) Probability of death between 15 and 60 y of age. (C) Probability of death between 60 and 75 y of age. Joint risk is a combination of high blood pressure (directly, or indirectly through high dietary salt intake), high blood glucose, high LDL cholesterol, and high body mass index. BMI, body mass index; CVD, cardiovascular disease; NCD, non-communicable diseases; PUFA, polyunsaturated fatty acids; SFA, saturated fatty acids; TFA, trans fatty acids.
doi:10.1371/journal.pmed.1001160.g001

tobacco smoking for men over 80 y old in the early 2000s reflected a reduction in this population group as a result of the 1918 influenza pandemic.

Figure 3 demonstrates trends in the number of deaths from stroke that were attributable to high blood pressure. Stroke deaths

associated with this risk factor, either directly or indirectly through high dietary sodium intake, consistently declined for both sexes under 80 y of age. This favorable trend continued in the 2000s for women and for men under the age of 60 y, but it ceased for elderly men by the mid-1990s.